

天塩川流域委員会 御中

天塩川の河川整備・管理について、次のとおり意見を述べたいので申し出ます。

平成17年3月21日

1. 意見陳述申込者

氏名：
年齢： 56歳
性別： 男

住所： 山越郡八雲町

2. 意見

私は1977年から、北海道の川魚を撮影するようになり、その間、多くの川を見てきました。

その結果、長い年月を経て、安定していた河川の「砂利需給のバランス」をダムが壊し、そのダムが、下流全域で河床低下を拡大させ、その結果、各所で河岸崩壊を繰り返し、道路崩壊や農地崩壊などの災害を生みだしている疑いを持つに至りました。

また、河床低下が発生する場所は、サケやサクラマスが産卵する河床ほど著しく、熊石町見市川や八雲町遊楽部川・鉛川・砂蘭部川の例を挙げるまでもなく、その他の多くの河川でも同様に、道路崩壊や農地崩壊の災害につながっています。

一方、河川管理者は、道路崩壊や農地崩壊の災害が発生した河床に「床固工」を敷設するため、サケやサクラマスの産卵場が失われています。

サケやサクラマスなど、多くの川魚の卵は、育つまでの間、常にきれいな水にさらされていなければなりませんから、河床の「透水性」が確保されていなければなりません。サケマスふ化場に、泥水が流れ込み、卵が泥を被り「透水性」が失われたら、卵が全滅することからも、お解り頂けるとと思いますが、川魚の資源保全のためには、「透水性」の確保が必要です。

また、ダム下流で発生する、河床低下に伴う河岸崩壊は、大量の土砂を新たに産出させ、その結果、河床に、微細砂すなわち、砂やシルト状の泥を沈殿させるばかりか、さらに微細な「ウォッシュロード」も加わって、下流全域と、遙か沿岸海域まで広がり、河川から沿岸海域の水産資源に、広範な影響を与えることが現実のものとなっています。

その最たる事例は、日高の沙流川であり、上流の大小のダムによる河床低下と、それに伴う河岸崩壊が、流域の広い範囲で発生しているため、大量の土砂が産出され、下流の二風谷ダムに流れ込み、二風谷ダムは流れ込んだ土砂から「シルト状の泥」だけを選び分ける「ふるい」の役割をしており、二風谷ダムから下流に放出し、下流全域と沿岸海域の広範囲に、シルト状の泥とウォッシュロードを振りまいているのです。

しかも、「二風谷ダム」に溜まった泥水が、きれいになるまでには、長い時間がかかるため、ダム下流では、川水が澄み渡ることは困難となっています。また、二風谷ダムでは、湖底に沈殿・堆積した有機物が分解して水質が劣化し、ドブ臭さが漂ってきます。

「二風谷ダム」の他、道南の森町の「駒ヶ岳ダム」でも、泥水がなかなか消えず、日高の「様似ダム」や数多くの治山ダムが設置されている道南の「八木川」では、水質が劣化していますし、熊石町の見市川では、見市川砂防ダムから大量のヘドロ状の

赤水が流出して、見市川砂防ダムの下流全域を真っ赤に染める予測しえない事態も発生しています。

これまで川が荒れ、災害が繰り返され、水産資源が減少する多くの事例を見てきたことから、サンルダムが建設された場合には、ダムに大量の土砂・有機物を溜め込むことになり、水質の劣化を招き、かつ、ダムの下流域では、河床低下に伴う河岸崩壊・堤防決壊・道路崩壊・農地崩壊など多くの災害を新たに発生することが目に見えてきますし、サケやサクラマスなどの、水産資源の枯渇に関わる重大な影響を与える可能性が予測できます。

ダム建設後に、カワヤツメ資源が減少したと指摘されている後志のピリカダムや、日高の二風谷ダムの建設に伴って行なわれたように、サンルダム建設でも、災害予防措置として、護岸や床固工が敷設されることは避けられず、建設後にも、災害発生のたびに補修工事が繰り返されて、次々と「床固工」が敷設されることが予測されますから、「わき水」や「伏流水」が蓋をされ、サケやサクラマスなどの、魚の産卵場が失われることは必至であり、水産資源の減少や枯渇が危惧されてなりません。

また、本流の河床が低下すれば、本流に注ぐ支流すべてに「吸い出し効果」が現われ、新たに支流で、河床低下と河岸崩壊が発生することになり、起こらなくても良い、道路崩壊や農地崩壊などの災害が引き起こされることになり、災害が、止めどもなく繰り返されることが危惧されます。顕著な事例として芽室町渋山川を上げておきます。この川の砂防ダムの下流では何と6, 7メートルも河床が低下し、そこに注ぐ、小さな枝川でも、河床低下が起きて、極端に堀込み、何と合流部では本川と同じ6, 7メートルの深さまで河床が低下し、小さな支流の上流部では農地が崩壊する災害が今なお発生中なのです。

さて、サンルダムから下流で、予測される河床低下と河岸崩壊は、大量の泥を新たに、産出し続けることになりますから、サケ・サクラマス資源を、種苗の段階から根絶する可能性があり、かつ、流れ出したシルト状の泥やウオッシュロードは、沿岸海域のプランクトンやホタテなど、多くの水産生物に影響を与える可能性があり、水産資源の減少や枯渇に結びつく「危険性を孕んでいる」と言えます。

以上の理由から、天塩川の「河川整備及び管理」には、サンルダムによらない別な方策を検討するべきで、サンルダム建設は、中止すべきだと申し添えます。

なお、天塩川流域委員会には、科学者や専門家の方々が、多数参加されていますが、自然は多様な仕組みで成り立っており、自然の仕組みが十分に解明されていない現状で、解明されていない「わからないこと」に言及することなく、各専門家の方々が「わかったこと」だけで、ダム建設を認めることは、わからないことがありながら「大丈夫」と判断される「容認」と同じ扱いになるわけで、この微妙な境目の「危険性」を十分にご認識頂き、真摯に正確なご判断を頂きたいと思えます。

最後に、沙流川のシヤマモやサクラマス資源の惨憺たる状況は、二風谷ダム・平取ダム建設にあたり、科学者・専門家が「わからないこと」を、無視して判断した結果を物語っており、もの言わぬ魚たちが、科学者・専門家の「判断の危うさ」を、教えてくれているようにも思われますので、天塩川・サンル川が沙流川の「二の舞いを踏まない」ようにするためにも、天塩川流域委員会で、自然の仕組みを、客観的に捉えて、十分な論議をされ、正確なご判断をされることを、沙流川と魚たちに代わって、申し添えさせて頂きます。

以上です。